

地歴散歩「坂合部一族」の由来は…

- ①下坂部には中世、雀部(ささべ)氏の氏寺があったことから、ササベ→サカベと考える説。
 - ②漢人の子孫の坂合部首。土地境界の裁定に当たった部(役所)の坂合部・境部一族から名づけられた説
 - ③酒造にかかわる一族から、酒部⇒坂部とする説
- 今回は②の説に限って坂合部首の行方を探ります。

坂合部連の出所については、古事記・神武天皇条「神武東征」に見出されます。

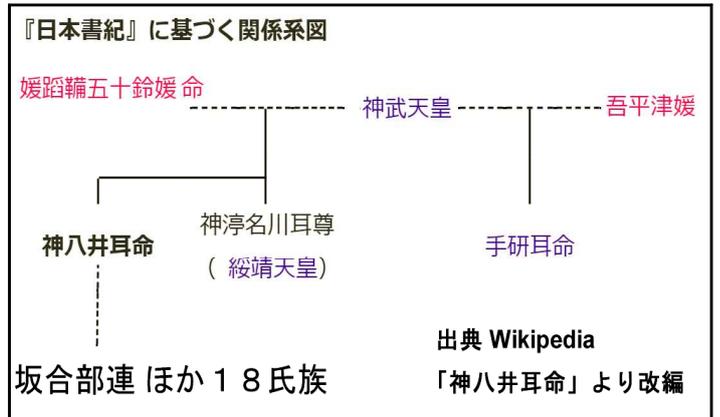
ここに神八井耳命(カムヤヱミミノミコト)、弟建沼河耳命(タケヌナカハミミノミコト)に譲りて曰さく、「吾は仇を殺すこと能はず。汝命はすでに仇をえ殺したまひき。故、吾は兄なれども上となるべからず。

ここをもちて汝命上となりて、天の下治らしめせ。僕は汝命を扶けて、忌人となりて仕へ奉らむ」とまをしき。故、その日子八井命は、茨田連・手島連の祖。神八井耳命は、意富臣・小子部連・坂合部連(サカヒベノムラジ)…等の祖なり。

また、先代旧事本紀(天孫本紀)には「火明命十六世孫 尾治坂合連(おわりのさかあいむらじ) 此連 允恭天皇御世寵臣として供奉す」とあります。尾治は今の愛知県尾張地方です。なお、日本書紀には、斉明(推古)天皇7年(西暦668)11月9日「捉有間皇子与守君大石・坂合部連葉・塩屋連? 魚、送紀温湯。舍人新田部米麻呂従焉。於是皇太子親問有間皇子曰、何故謀反。答曰、天与赤兄知。吾全不解。」11月11日「坂合部葉於尾張国。或本云、有間皇子与赤兄・塩屋連小戈・守君大石・坂合部連葉、取短籍ト謀反之事。」と記しています。坂合部葉(さかあいべのくすり)は有間皇子の変(齐明天皇暗殺の企て)で、皇子に味方して尾張国に流されました。これらのことから、尾張にも坂合部一族がいたと考えられます。

なお、奈良県五條市阪合部(旧:宇智郡坂合部村)には、紀伊国との境にある坂合部城がありました。坂合部氏は鎌倉から南北朝時代にかけて、この地を領する地侍でした。江戸時代に編さんされた五畿内志のひとつ、大和志下巻には、「坂合部郷は坂合部氏がかつて、ここに住せしより地名となつた。」と記されています。天正2年(1574年)6月10日、高野山僧徒との戦いに敗れ、遂に坂合部城は落城しました。坂合部一族は、豊臣秀吉が高野山を鎮圧後に帰郷して農業を営む者、尼崎方面へ亡命する者等あり離散したそうです。尼崎の坂部と五條の坂部は、元々同じ一族、あるいは同志だったのかも知れませんね。

五條市の坂合部についても、名は境界に由来するとの推察があります。確たる資料の裏付けはないものの、地勢を見れば、吉野川を挟む国境にあることや東大寺莊園にあって条里制が導入された経緯から、その可能性はありそうです。



坂合部村 坂合部氏嘗テココニ住セシヨリ地名トナリシモノナラン。姓氏錄皇朝ニ「坂合部首、阿倍朝臣同祖。大彥命之後也。」ト即チ是。中世以降、上野・眞土峠・相谷・降靈寺新田・大飼・黒馬・大野・山影・中・大津・表野・火打野・田殿・大深ノ十四村ヲ坂合部莊ト稱ス。明治廿一年坂合部莊ニ櫻辻村ヲ加ヘ一村トナシ舊稱ニ仍リ坂合部村ト名ヅク。

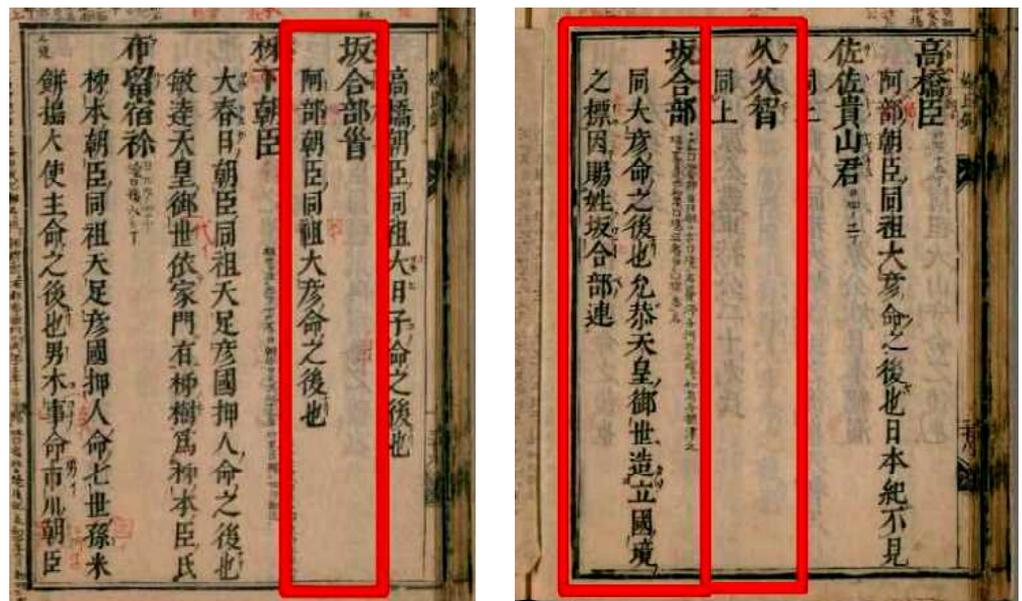


新撰姓氏録には

- ①「摂津国皇別 坂合部連 大彦命之後也 允恭天皇御世 造 立国境之標 因賜姓坂合部連」
- ②「和泉国神別 坂合部 火闌降命七世孫夜麻等古命之後也」
- ③「左京神別 坂合部宿禰 火明命八世孫邇倍足尼之後也」
- ④「坂合部首 阿部朝臣大彦命之後也」 とあり、いくつかの出所が見られます。

- ①「摂津国皇別 坂合部連…」の記述については、久久智の記載もある故、尼崎の坂部と思われます。
- ②「和泉国神別 坂合部…」の記述については、「火闌降命七世孫夜麻等古命の後裔にして隼人族なり、允恭朝に阿良古は坂合部連を賜姓。天武13年(684)、後裔の鯛魚は境部宿禰を改賜姓。」のくだりがあるようです。隼人族は九州・鹿児島を地元とする一族ですが、大和や畿内に出向した者も多くいました。故郷を離れて、犬養部や日下部、坂合部等の品部(役所)に配属された人達の中には、都で部の一族として暮らした人々もいました。
- ③「左京神別 坂合部宿禰…」の記述については、新撰姓氏録の他に、日本書紀巻第十三 安康天皇三年八月壬辰条に、坂合部連贄宿禰の名が見られます。大泊瀬皇子に円大臣・坂合黒彦皇子・眉輪王が焼き殺される時に、坂合部連贄宿禰は坂合黒彦皇子の屍を抱いて焼け死んだ。その舎人どもは焼けた遺骸を取り収めたが、骨を選び分けることは難しかった。一つの棺に入れて 新漢(いまきのあや)の擬本(つきもと)の南の丘に合葬した。…と記しています。新漢とは、漢から渡来した人のことです。
- ④「坂合部首 阿部朝臣大彦命之後也…」の記述については、大彦命(おおひこのみこと)は、第8代孝元天皇の第1皇子で、阿倍臣(阿倍氏・安部氏)を始めとする諸氏族の祖とされています。

遠く漢の国から渡来したとされる一族の末裔? 日本の南端、薩摩の国から出向した隼人族の一味? 尾張坂合部氏? 大和五条坂合部氏? 尼崎坂合部氏… 係る出生は諸説あります。地歴散歩108話で述べた「猪名部氏」は、新羅から派遣され、大和朝廷職業部の一つである「猪名部」に属し、猪名川町(兵庫県)、西猪名(大阪府)、稲部町(滋賀県)、いなべ市(三重県)、伊奈町(愛知県)、伊那市(長野県)と次々に活躍の場を広げていきました。とすれば、坂合部氏一族も同様に職業部族として各地で繁栄した可能性も十分に考えられます。私たちの坂部(上坂部)をひも解けば、そこには遥か古代の歴史のロマンスが漂います。



国会図書館デジタルコレクション
新撰姓氏録

参考資料

★大和五條:柿の木坂の家(jun-f) <http://rekishi-nara.cool.coocan.jp/index.html> ★坂合部殿三証文(奈良県史) ★奈良の城郭(歴史研究会たけ) <http://rekishi-nara.cool.coocan.jp/index.html> ★ウイキソース Kagoshima pref book https://ja.wikisource.org/wiki/Page:Kagoshima_pref_book_1.pdf/44 ★続・甚の山城日記「紀伊国との境にある坂合部城」(山城甚伍) <http://yama46.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-010b.html> ★日本神話 古事記:神武天皇とイスケヨリヒメの子孫(擅恣企画) <https://nihonsinwa.com/page/2757.html> ★日本の苗字七千傑[境部氏]隼人族 <http://www.myj7000.jp-biz.net/clan/02/021/02152.htm> ★戸原のトップページ社寺巡拝記「河内国 坂合神社」 <http://www.y-tohara.com/naka-sakai.html>